

観光振興の政策効果に関する実証研究

研究の概要

経済統計や観光統計を中核としながら、観光統計制度の整備、観光需要予測の研究、観光需要の季節変動の測定、観光消費による経済波及効果、観光サテライト勘定などについて研究しています。特に観光振興を実施した場合の経済波及効果の測定については、過去に複数の組織と共同で行ってきました。

これ以外の研究テーマとして、企業不動産マネジメントがあげられ、企業や行政が保有する不動産や施設の有効利用についても研究しています。働き改革が進められ、従業員の生産性を向上させるためにオフィスなどの職場環境がどうあるべきか、または企業が保有する施設が適正利用されているかについて考えています。

研究の特徴

和歌山県に限らず、多くの自治体では観光振興による交流人口の拡大と同時に、観光消費額の増加による地域活性化を目指しています。しかしながら、観光振興を評価するためのデータの収集や分析は労力を要します。このような観光振興の評価について、公的統計、ビッグデータや独自調査を通じて行うことがもとめられています。最近では、観光振興に限らず、行政において証拠に基づく政策立案（EBPM）が叫ばれ、データを通じた政策の可視化は重視されています。

行政・経済界・地域と連携した取り組み例

- ・ 岸和田市との共同研究「連続テレビ小説「カーネーション」による経済効果の計測」
- ・ 森ビル株式会社・森美術館との共同研究「六本木アートナイトが及ぼす経済波及効果の計測に関する研究」

研究者からのメッセージ

和歌山県には統計データ利活用センターや和歌山県データ利活用推進センターなどの組織があり、統計データを利用する優れた環境があります。このような環境を十分に活用して、行政課題の解決や新産業の創出が期待されています。

研究分野 : 経済統計, 観光統計, 企業不動産マネジメント

研究者の所属部局・職位・氏名 : 和歌山大学観光学部 観光学科・教授・大井達雄

本件に関するお問い合わせ : liaison@ml.wakayama-u.ac.jp